

* 39 生鶏卵の細菌学的研究

実践女子大 塩川 ふみ
衛藤 君代

市販の生卵及び種卵の各50個を入手し、卵殻表面を滅菌し、無菌箱内に於て卵内容を抽出して検査したところ、全体として12%の細菌汚染を発見した。検出菌は *E. coli*, *Pseudomonas*, *B. brevis* 及びブドウ球菌の1種であった。

以上の各種菌をそれぞれ単独に培養し、卵殻表面に塗布し、あるいは培養菌の生理食塩水浮游液中に卵を浸したままの状態、37°C、7日間保存し、その後投与菌の卵内侵入の有無を確かめたが、菌検出率は通常の場合と同じであった。

次に各種菌をそれぞれブイヨン培養し、この培養液に

卵を侵したまま、37°C、1週間保存し、その後に卵内容を検査してみると、*E. coli* 及びブドウ球菌の1種の場合に60~80%の高率に卵内菌検出をみた。この際は投与菌の外に卵殻外に附着していた菌の一部も侵入していた。以上のことから或種の菌の産生する物質が卵殻及び卵殻膜の透過性を昂進し、菌の卵内侵入が起るものと思われる。